

二〇二〇年九月二十六日

林泉の風のさざなみ秋の声

わかば

柿太る不作不作と言はれつつ

はく子

渡船場の貸し傘借りる秋時雨

なつき

身にしむや遠き昭和の捨て火箸

小袖

秋風が筒抜けてゆく通し土間

せいじ

落人の開墾地てふ蕎麦の花

かかし

とんぼうと秋つばめとの空は別

うつぎ

軒の巢に残る羽毛や燕去ぬ

よう子

鴟猛るこころ能勢氏の城の跡

小袖

藍深く潮の目著き秋の海

わかば

投句箱溢れんばかり獺祭忌

かかし

毎週句会秀句・みのもる選・二〇二〇年九月二七日